



Info Mart

インフォ・マート

お求め・問合せ はこちら

04-2998-7777 | <https://www.muse-tokorozawa.or.jp>

vol.133

藤田真央 [ピアノ]

ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団

▶▶P1

イーヴォ・ポゴレリッチ [ピアノ]

▶▶P3

ケルティック・クリスマス2024

ANÚNA

▶▶P5



チャイコフスキ国際コンクール第2位

世界を魅了する天性の輝き

藤田真央 [ピアノ]



2019年にチャイコフスキ国際コンクールで2位入賞の快挙を成し遂げた藤田真央の快進撃が止まらない。世界を魅了する天才が紡ぐシューマンの抒情と輝かしいタッチを所沢ミュージズで堪能いただこう！

所沢ミュージズ初登場 — 衝撃のラフマニノフ



所沢ミュージズへの初登場ではアンコールでシャニと連弾し聴衆を沸かせた

藤田真央の所沢初登場は2023年6月。欧州を席巻する名指揮者シャニと名門ロツテルダム・フィルとの共演で、ラフマニノフの最高傑作《ピアノ協奏曲第3番》を取り上げた。ラフマニノフの《第3番》といえば、作曲家自身による演奏（1939/1940年）やホロヴィッツの伝説的な爆演、アルゲリッチによる快演が有名で、強靱なタッチと超絶技巧の印象が強いが、藤田真央の《第3番》はひと味もふた味も違う。上腕と手首の柔らかさを活かした柔軟なフレージングと弾けるような抜群のリズム感で聴衆をぐいぐいと惹き込む。これを果たした直後の1841年に作曲が開始され、もともと《幻想曲》として構想されたこともあり、バガニーニやリストのような演奏技巧を売りにする協奏曲とはまったく性格を異にする。もつれるかごとく繊細なピアノのテクスチャや小節ごとくうつろいゆく多彩な和声と色彩、そしてピアノとオケの緊密な対話など深い幻想性と抒情を湛える。

異例の大ヒットとなり、9月に発売予定の《72 Preludes ショパン/スクリヤーピン/矢代秋雄》も世界から注目を集めるなど、その国際的な評価と人気はいや増すばかりだ。

抒情とロマン — シューマンの幻想

来年2月、ミュージズに再登場する藤田真央が取り上げるのは、ピアノ協奏曲の中でも屈指の傑作《シューマン：ピアノ協奏曲イ短調 Op.54》だ。共演はブラームスやRシユトラウスの傑作の数々を初演してきた名門ケルン・ギェルツェニヒ管弦。ケルンはライン川流域のドイツの街の中で最も重要な街であり、シューマンが壮麗なケルンの大聖堂から靈感を得て交響曲第3番《ライン》を作曲するなど、作曲家と所縁の深い街の一つでもある。《ピアノ協奏曲 イ短調》は、シューマンが愛するクララとついに結婚

ほど抒情的で流麗な解釈があり得たのかと思わせる、藤田真央ならではの新鮮な名演奏といえよう。さらに元々流のピアニストとしてならしたシャニの指揮が心憎いまでに気が利いている。ピアノがどこでたつぷりと歌い、どこで輝かしい音色を放つかを知り尽くし、流れるように美しく精彩なラフマニノフを造形してみせる。そして極めつけはアンコール。プロコフィエフの小品のソロに加え、藤田真央とシャニの連弾による《スラブ舞曲》まで飛び出し客席を大いに沸かせた。

Amazing MAO — 世界がMAOを離さない

2023年のカーネギー・ホールデビューやウイグモアホールでの《モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏》も大きな話題となったが、2024年も藤田真央のスケジュールはとんでもないことになっている。



2023年1月に音楽の殿堂カーネギー・ホールに鮮烈なデビューを果たした



2024年2月、A.フィッシャー指揮ウィーン響との共演でムジークフェラインにデビュー



2024年2月、世界的名匠ピシュコフ指揮でバイエルン放送響と初共演し絶賛を浴びた



《モーツァルト：ピアノ・ソナタ全集》は世界中から絶賛を浴びた

ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団

サカリ・オラモ [指揮]
藤田真央 [ピアノ]

2025年2月9日(日)
13:15開場 14:00開演
アークホール

残席僅少



公演情報

〈料金〉全席指定
B席：12,800円 S席・A席・P席 完売
メンバーズ特割
B席：11,200円 S席・A席・P席 完売

※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。
※都合により出演者・曲目の一部が変更になる場合がございます。

真の芸術家が放つ深遠なる美の世界

Ivo Pogorelich Piano Recital in MUSE



1997年の来日公演のチラシ。人生の大きな転機を迎えつつあった



1980年のショパン・コンクールでは個性的な演奏で論争を巻き起こした



1977年の初録音。プロコフィエフ《戦争ソナタ》の名演で知られる



完全復活を印象づける 2022年にリリースしたショパン・アルバム



ショパン・コンクール後には欧米の著名ホールや劇場を席巻した



いままさに
円熟の瞬間を迎える
稀代の名手

イーヴォ・ポゴレリッチ [ピアノ]

旧ユーゴスラヴィアに生まれモスクワで学んだポゴレリッチは現代屈指の個性派ピアニストとして知られる。手垢にまみれた解釈を拒み、作品の意味を問い続ける近年の姿はまさに真の芸術家というに相応しい。その波乱に満ちた半生をたどった。

1980年のポゴレリッチ事件

事件は1980年に突然起こった訳ではない。1958年に旧ユーゴスラヴィアに生まれたポゴレリッチは社会主義体制の中で頭角を現すと、モスクワ音楽院で学ぶようになる。しかし、生来の反骨精神から伝統を否定する演奏スタイルで教師たちと衝突を繰り返したという。カナダとイタリアのコンクールで優勝した余勢を駆って1980年にショパンコンクールに出場すると、予想通り度肝を抜くような個性的な演奏を繰り広げ、審査員の評価は真つづに分かれることになる。問題が噴出したのは第3ラウンドのあと。審査の結果、ポゴレリッチの敗退が決定すると、審査員数人が「この優れたアーティストがファイナルに進めないのは理解できない。」と異を唱え、さらにマルタ・アルゲリッチは「だつて彼は天才よ!」という名言を残し、抗議の意を示し審査員を辞任してしまう。コンクール史に残るスキヤンダルに慌てた審査員は、ポゴレリッチに審査員特別賞を与えることで事態の収束を図った。「ポゴレリッチ事件」と呼ばれるこの連の出来事により、本選に漏れたポゴレリッチは、皮肉にも一気に世界の注目を浴びることになる。

本当の事件は 真の天才の出現

強靱なタッチと深い音色、圧倒的なテクニックと大胆な着想など、ポゴレリッチの天賦の才は疑いようもない。問題はそれが「作曲家の意図を無視した勝手なパフォーマンス」なのか「作品の隠れた魅力を引き出す革新的な表現」なのかという点だろう。ショパンコンクールでは賛否が分かれたが、その後のポゴレリッチの輝かしいキャリアをみれば、彼の才能がまぎれもなく「本物」であり、その才能の出現こそが「事件」であったといえるのだろう。コンクールの翌年には、カーネギー・ホールでのデビュー公演を大成功させて欧米を席巻。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、パリ管、シカゴ響などの一流オーケとの共演でも絶賛を浴びた。当時「帝王」と呼ばれたカラヤンとは、最初のリハーサルでテンポをめぐって衝突し共演は幻に終わったが、アバドや小澤征爾などの名指揮者とも共演し着実に評価を高めていった。名門レーベル「ドイツ・グラモフォン」と契約し1995年までに14枚のアルバムをリリース。特に、バッハ《イギリス組曲》、ショパン作品集、モーツァルト《ピアノ・ソナタ集、シューマン《交響的練習曲》、ムソルグスキー《展覧会の絵》、リスト《口短調ソナタ》などは、いまもつて名盤の1つに数えられるほど高い評価を獲得している。

混沌の闇を乗り越え、慈愛の光へ

転機は1996年に訪れる。ピアノの恩師であり、21歳年上の最愛の妻ゲゼラーゼが亡くなるとポゴレリッチは、精神面においても芸術面においても混沌の時代を迎えることになる。リサイタルはキャンセルが増え、録音もブツリと途絶えてしまう。数年の静養を経てステージへと戻って来るが、その演奏は異様に遅いテンポ、凶暴なまでのフォルテ、極端なデフォルメなど、聴き手を困惑させる「怪演」が多かった。当時のポゴレリッチの孤独な心情について他人は知るべくもないが、彼に近い人たちの証言では、2010年頃から表情にも音楽にも光が差し始めたという。その後も数年おきに来日を果たし、2017年には奈良の正暦寺で30年振りの映像収録を行い、滋味溢れる演奏で復調をアピールした。ソニー・クラシカルと専属契約を結び、2019年にCDアルバムとしては21年ぶりとなる《ベートーヴェン&ラフマニノフ》をリリース、2022年には待望の《ショパン・アルバム》をリリースし完全復活を印象づけた。



近年はさらに円熟した温かい演奏と柔らかな表情が特徴

イーヴォ・ポゴレリッチ [ピアノ]

2025年1月26日(日)
14:15開場 15:00開演
アークホール

好評発売中



公演情報

- 〈曲目〉
モーツァルト: アダージョ 口短調 K.540
: 幻想曲 ハ短調 K.475
: 幻想曲 ニ短調 K.397
: ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 K.331
(トルコ行進曲付き)
ショパン
: ノクターン 変ホ長調 op.55-2
: 3つのマズルカ op.59
: ピアノ・ソナタ第2番 変口短調 op.35(葬送)

※出演者の希望により曲目が変更になりました。どうぞ、ご了承ください。
〈料金〉全席指定 S席:7,300円 B席:6,300円
メンバーズ特別 S席:6,300円 B席:5,400円
※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。
※都合により内容の一部が変更になる場合がございます。



リーダーのマイケル(左)は寿司が大好き。アイルランドの自宅で出汁を手作りするほど和食も好き。
 完璧なステージをみせるため、移動中のバスでも熱心にリハーサルするメンバー。
 全員とにかく歌が好き! 終演後に食事する居酒屋でも大合唱が始まります。



メンバーは、2015年からアイルランド以外からも大勢参加しヨーロッパ各地の精鋭が集結している。
 (右) 2017年ケルティック能「鷹姫」公演より。
 (左) 共演した能楽師、梅若玄祥氏と。マイケルは日本文化やスピリットにも多くの共感を得ている。

アヌーナのはじまり

「中世のアイルランドの音楽を現代に蘇らせる」というコンセプトのもと、1987年にアイルランドの作曲家マイケル・マクケリンによって結成されたアヌーナ。アイルランドの古い音楽を表わす3つの言葉「Suairt(ラバイ=子守歌)」「Geantair(幸せな歌)」「Goltraí(嘆きの歌)」これらを総称した言葉「An Uathne」アヌーナ」から名付けられた。

スチュームを身に付け、キャンドルを手に持ち演奏する。指揮者は登場せず、シンガー一人一人がその役割を担っているということ。最大の特徴であり、魅力の一つ。指揮者もなくすことで皆がお互いの声をよく聞き、全員が平等に責任をもって自分を表現する。そしてそれはシンガーとお客さんの壁がなくなることもあるのだ。そしてもう一つの特徴は、コンサートで歌いながら動き周ること。これはマイケルが指示を出すものの、ほとんどはシンガーが自主的に動き回る。なぜこうするのか、マイケル本人も理由はわからないというが、こうすることが歌にとって自然で一番正しいことであり、歌がまるでその動きの一部となっていると言っているのだ。

美しいものを シンプルな方法で伝えたい

アヌーナのレパートリーは、マイケルが発掘した中世アイルランドの聖歌、伝統歌、オリジナル曲など多彩な楽曲が並ぶ。歌詞もラテン語、英語、ゲール語と、実に巧みに組み合わせられていて、歌によっては何千年も前の古い言葉で書かれているため、それを再現するためにアヌーナ独自の発音をも作り上げ、常に古来の発音に近づけるようにしている。

また、四半世紀をかけて独自の発音方法も開発してきた。アイルランドに残る古い楽譜には現代では理解できなくなった不思議な記号がたくさん書かれており、オペラのベルカント唱法や、ポップスなどの発声法で、これを再現することは不可能であったから。根幹となる呼吸や発声の子供のように極力自然に行い、空気の流れに沿っ

歌が自然であること

アヌーナの基本的な演奏スタイルは、中世の

また、四半世紀をかけて独自の発音方法も開発してきた。アイルランドに残る古い楽譜には現代では理解できなくなった不思議な記号がたくさん書かれており、オペラのベルカント唱法や、ポップスなどの発声法で、これを再現することは不可能であったから。根幹となる呼吸や発声の子供のように極力自然に行い、空気の流れに沿っ

10年ぶりとなる日本ツアー

「自然に声を出す。そうすることで歌い手の本質を引き出し、響きを重視してハーモニーを作っている。そしてシンガーには、声の美しさだけでなく、曲の持つ意味を咀嚼し人々に伝えること、そしてその身なりや振る舞いにも美しさを求めている。「美しいものをできる限りシンプルに方法で人々に伝え共有したい。なぜなら、人は誰でも美しいものを見れば心を動かされるものであるから。...これがマイケルの信念なのだ。」

今回は9年ぶりの最新アルバム『アザーワールド』から日本初披露の新曲や、クリスマスソング、日本の歌までを演奏予定。これまでも「さくら」や「もののけ姫」などの日本の楽曲も演奏してきたが、多くの聴衆はこれが日本の曲であるということに驚く。マイケルがアヌーナのために書いた楽曲と共通点がとても多いからだ。マイケルは、前世は日本人だったのではないかといい(!!)、日本の心と共感できるものが多いという。2020年の来日中止を経て、10年ぶりとなる日本ツアー。ステージでのパフォーマンスとして独特な透明感あふれるアレンジと普遍的なサウンドは、これまで抱いていたコーラスのイメージとはがらりと違う雰囲気を感じることだろう。

芸術の女神ミュージズが見守るアークホールの空間で、会場と観客とシンガーが一体となるアヌーナの神秘の歌声をお楽しみいただきたい。

おすすめ動画 YouTube アヌーナ



サンクトゥス (Sanctus)



エアレンデル (ÉARENDEL) ~新作アルバム「アザーワールド」より

ケルティック・クリスマス2024 アヌーナ来日公演 in 所沢

2024年12月1日(日)
 13:00開場 15:30開演
 (客席開場15:00)
 ※13:00~ロビーイベントあり
 アークホール
好評発売中
 <料金> 全席指定 S席:5,800円 A席:4,600円
 <メンバーズ特別> S席:5,200円 A席:4,000円
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。
 ※都合により内容の一部が変更になる場合がございます。

ケルト市、アイリッシュ・フードの 販売やロビーイベントなど 盛りだくさん!

13:00より

- ★アヌーナのコーラス・ワークショップ
- ★アヌーナ女性メンバー「SYSTIR(システィア)」日本初お披露目!スペシャル・ミニ・ライブ

詳細はHPにて

ステージレポート

Stage Report

6月23日
~8月14日

2024
6/23
(日)

小林研一郎 [指揮] 亀井聖矢 [ピアノ] ハンガリー・ブダペスト交響楽団

〈アークホール〉
曲目 / ロッシーニ: 歌劇「セビリアの理髪師」序曲
リスト: ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124
チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 作品 64

ハンガリーを代表する「MAV」のオーケストラ! 炎のマエストロ「コバケン」と熱演を繰り広げました。
俊英・亀井聖矢のダイナミックな演奏にも、大きな拍手が贈られました。



7/7
(日)

第120回所沢寄席 たい平・喬太郎 二人会

〈マーキーホール〉
出演 / 林家たい平、柳家喬太郎、
三増紋之助〈曲ごま〉

たい平と喬太郎による贅沢な二人会。
二人の巧みな話芸に会場は笑いの渦に包まれました。



11
(木)

観て・聞いて・楽しむ 能楽プレ講座

〈キューブホール〉
講師 / 遠藤喜久 [観世流能楽師]

8/24 (土) 触れてみよう! 能楽の世界「葵上」でシテ方を務める遠藤喜久によるプレ講座。源氏物語「葵上」の解説や、謡ってみようのコーナー、遠藤喜久による舞いなど盛り沢山の70分でした。



20
(土)

親子で楽しむクラシックコンサート 音楽の絵本

〈マーキーホール〉
出演 / ズーラシアンプラス [金管五重奏]
弦 (つる) うさぎ [弦楽四重奏]
曲目 / バッカスの行進、カントリーロード、チキチキバンバン、小さな世界 ほか
夏休みの始まりをつける動物たちの音楽会!
今年もパワフルな演奏と多彩な曲目で大いに盛り上がりました。



27
(土)

夏休み! ミューズとことこ探検ツアー

〈アークホール〉
出演 / 石丸由佳 [オルガン]、原田真佑 [オルガン]
ツアー内容 /
日本最大級のパイプオルガンを弾いてみよう!
パイプオルガンのミニ・コンサートを開催!
ホールや舞台裏を探検しよう!
照明のお仕事を体験しよう!

照明のお仕事体験、ホールと楽屋裏の探検、オルガンの演奏体験と、
ドキドキしながらも、子どもたちの笑顔がはじける盛りだくさんの2時間半でした!



8/14
(水)

劇団四季 ファミリーミュージカル 『エルコスの祈り』

〈マーキーホール〉
出演 / 劇団四季



写真撮影 (市民カメラマン) / 津田 (6/23) 三平 (7/7) 中村 (7/20) 佐藤 (7/27) 由井 (8/14)

チケットのお問合せは……ミューズチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00~18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

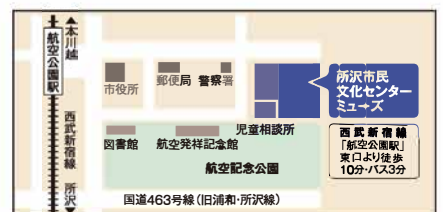
所沢 ミューズ

検索



クラシック・ポピュラー・演劇・
寄席など多彩で魅力溢れる公演
を開催しております!

詳細はミューズホームページで
ご確認ください。
<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



※公演情報は2024年8月26日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなること
もございますので、ご了承ください。

次回のインフォ・マートは2024年11月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。